北上山地　片羽山雄岳（山スキー）

2011 年 3 月 06 日
松田

３月０６日（雪時々曇り　風強し）
和賀のブナが見たくて、高下岳を計画したが、秋田方面は天気が悪そうである。まあ行くだけ行ってみて、と出かけたが、錦秋湖付近まで来ると雪が激しくなり、これは無理だと戻ることにする。一度北上に戻り、天気の良さそうな北上山地の片羽山に転進することとし、地形図を持って再出発。遠野市に着く頃には青空も見え始めた。岩手県は大きいので、日本海側の天気と太平洋側の天気が共存していて、北上はちょうど中間くらいか。猿田牛川の河畔は、草地が見えて牛が放たれていた。正月明けに来た六角牛神社の前を通ると、随分と雪が減っており、山も大分黒っぽくなっていて、雪があるのか少し心配になる。路面に雪の残る笛吹峠を慎重に越え、片羽山の登山口に行く林道に少し入った所に車を停めた。雪が少ないので、ツボ足で１０分くらい林道を辿ると、片羽山と書かれた立派な鳥居があり、ここが登山口になる。この辺りの山はどこも信仰が篤いのだろう。

登山口の立派な鳥居

フリートレックをつけて歩き始めたが、所々雪が切れている場所もあり、悲しいくらい雪が少ない。沿岸部のこの辺りは、厳冬期でないと十分に雪がないのかも知れない。何とか雪をつないで、２合目付近からまずまず歩けるくらいの雪の量となったが、何だか雲取あたりを歩いているような感じだ。
ガリガリの歩きにくい雪面をどんどん登っていくと、岳樺の林となりブナはまばらである。風が強く、山全体がゴーゴーと鳴っていて、先週の船形のようだ。７合目と呼ばれる小ピークに出ると正面に雄岳が姿を現す。

７合目より雄岳を望む

少々急な登りを２００ｍくらいか。ピーク直下は白い。少々急な樹林帯を抜けると潅木だけになるが、この頃から視界がなくなり、強風で最悪の天候となった。ピークは間近なのであるが、吹っ飛ばされそうな風で、ストックを風下について耐風姿勢を取り、風の弱まるのを待って歩くという感じで、頂上では写真を撮るのが精一杯で、シールを付けたまま後ずさりするように、樹林帯まで降りる。シールを外し、急な樹林帯を降りるがあまり快適ではない。７合目からは堅雪の上に１０ｃｍ新雪が載っていて、るんるんで降りられた。しかし長くは続かず、２合目辺りでもう一度気持ちよく滑って、最後はスキーを外し、登山口に戻る。立派な鳥居にお礼を言って車に戻り、往路を戻る。いつもの口内の産直でリンゴを買って帰宅。

コースタイム
登山口（９：５０）－　山頂（１２：５０）－登山口（１４：３０）
地形図　　陸中大橋、能舟木